

Virtual Reality(仮想現実)を活用したオンライン語学留学

with English Language Teaching Centre, The University of Sheffield, UK

山田 知沙

技術企画課

1 はじめに

2020年2月より、コロナ禍により短期海外研修のための海外への現地派遣ができない状態が続いている。これに対し、山口大学工学部附属工学教育研究センターでは、協定校等と連携し、オンライン留学への参加を促進してきた。これまでの学生のオンライン留学参加実績は、ウーロンゴン大学(オーストラリア)、カセサート大学(タイ)、オークランド大学(ニュージーランド)の3校である。このような状況の中で、特徴的なオンライン留学の提案を打ち出したのが、イギリスにあるシェフィールド大学だ。シェフィールド大学附属語学学校(英国、以下 ELTC)では、ネイティブから英語を学べるカリキュラムを提供しているが、2021年10月より、Virtual Reality(仮想現実、以下 VR)を活用した語学留学を導入した。これは、コロナ禍において ELTC が提供を始めた“新しいカタチ”のオンライン語学留学である。しかし、VRを活用したオンライン留学に参加するには、授業料(£250/8週間)の他に、VRを体験するための専用ヘッドセットが必要となる。この機器は大変高価であるため、現時点では、語学留学以外の学生一人としては留学後に有効利用する機会がなく、本留学参加の目的のみで購入することは、敷居が高いものであり、10月に公募をかけたが応募者がいなかった。そこで、この要因が、「高価なVRヘッドセット購入」にあると推察し、「山口大学オンライン国際交流プロジェクト」により応募した。これにより、貸し出し用のVR専用ヘッドセットと授業料の一部を支援する体制を整えることができ、工学部の学部生および大学院博士前期課程に所属する学生に対し公募を行った。そうしたところ、募集人数を上回る応募があったため、参加者を過去2年間に受験したTOEIC最高スコアにより選抜し、VRを活用したオンライン語学留学参加という新たな留学環境を提供することができた。これについて紹介する。

2 背景

ELTCは、10月にこの新たな語学留学スタイルを導入するにあたり、公開前の8月にパートナーとして繋がり深い、山口大学工学部を含む協定校に対し、プレゼンテーションとデモレッスンを先行実施した。山口大学工学部では、社会建設工学科が中心となり、2004年から毎年(夏季・春季の2回/年)ELTCに学生を派遣しており、2012年からグローバル人材育成事業に採択されてからは、工学教育研究センター(2012年～2017年3月はグローバル技術者養成センター)が語学教育と海外派遣の機能を引き継いでいる。これまで(2012年～2021年)に、世界各国への派遣総数は21ヶ国49高等教育派遣機関、4企業に学生を派遣し、この中でも、ELTCへは、2004年から学生派遣を含め142名の学生を派遣してきた。

3 プログラム概要

留学期間は2022年1月24日～3月18日の8週間(全16時間:週2回(月、水)×1時間(日本時間20時-21時)×8週間)であり、現在4名の選抜学生がこれに参加している。VRオンライン語学留学では、VRを体験するためのヘッドセットを着用し、自分のアバターを選んで先生や他の生徒



図1. A Virtual Reality Classroom の様子1

とリアルタイムで交流することができる。交流の場は、ホテル、カフェ、レストラン、公園、ショッピングセンターや魔法学校、無人島、お城など多岐にわたる。参加学生は、これらのバーチャルロケーションを訪れることで、さまざまなシチュエーションを仮想体験しながら実践的な英語を練習することができ、ソーシャルスピーキングと英語に対する自信をつけることができ、これが、VR を活用したオンライン語学留学のねらいともいえる。このように、仮想現実の中で、からだを使って身の回りのものを動かしながら、対話するテクニックを習得することができるのも、モニターを通じた Face to Face のオンライン留学とは違った魅力である。

これは、コロナ禍で現地派遣ができない状況を補うだけでなく、従来の机上の語学留学では体験できない日常生活に密着した多種多様な体験を可視化したコンテンツであるため、参加学生は、語学力やコミュニケーション力が定着しやすく、フレーズの使い方、選択の仕方についてもより理解が深まると考えた。



図2. A Virtual Reality Classroom の様子2

4 参加学生の事前アンケート調査

前述したように、VRを活用したオンライン留学には、授業料(£250/8週間)の他に、VRを体験するための専用ヘッドセットを準備した。このことが、学生の参加機会の創出に繋がったかを把握するため、事前アンケート調査を実施し、学生を取り巻く状況を確認した。

まず、ヘッドセットの貸出しについて、参加者全員がこの条件が無ければ申し込みをしなかったと回答した。その理由としてあげていたものは以下のとおりである。

- ・ ヘッドセットの利用目的がこれ以外にない
- ・ 高いので自分では買えない
- ・ ヘッドセットを持っていないから
- ・ このためにヘッドセットを自分で準備しないとイケないので、大変だし経済的に見ても負担が大きいから

次に、授業料補助について調査をしたところ、4名中2名が授業料の補助がなければ申し込みをしなかったと回答した。これは、筆者の推測とおり、ヘッドセットが高価で購入するのが難しいため、申し込みへの敷居が高くなっていることと、授業料補助に対する回答についても、学生を取り巻く経済状況を少なからず反映していると考えられる。

最後に申し込みをした理由について確認をしたところ、以下のような回答が得られた。回答の中には、コロナ禍で現在渡航できない状況にありながら、今の自分にできることに一生懸命取り組みたいという、学生の強い意志が感じられるとともに、VR オンライン留学という最先端の技術を利用した“新しいカタチ”の留学に興味を持っていることが伺える。

- ・ ヨーロッパに留学したいから、授業料補助のあるVR留学でまず体験してみようと思って申し込んだ。
- ・ 私は海外にすごく興味があり、いつか海外に行きたいと考え、一年前から英語の勉強をしていましたが、コロナの関係で海外へ行けないので、日本でできることをしようと思い、様々な英語学習をしてきました。そして、その最中にオンラインで留学できるという機会があったため、いい機会だと思い、参加しました。
- ・ 元々長期休みを使って短期留学をしたいと考えていましたが、コロナ禍で叶えるのは難しいと判断しました。この状況でも無駄にせずできることをしたいと思い、オンライン留学に挑戦することを決めました。数あるオンライン留学の中でもこれを選んだのは、VRを使った留学という新しいスタイルに興味を持ったからです。工学部らしく、先端の技術を生かした留学は、英語力を身につけるだけでなく、+αの経験ができると考えました。

5 おわりに～今後の展望～

VR を活用したオンライン語学留学をコロナ禍における“新しいカタチ”のオンライン留学としてその機会を学生に提供した。今後は、短期海外派遣も徐々に再開されていくと推測するが、これをコロナ禍対策のために実施した留学手段のひとつとしてのみ位置付けるのではなく、現地派遣の前のプレレッスンとしての利用や、渡航費用のかからない身近でリアルな留学体験として導入するなど、学生を取り巻く状況によって、学生本人が選択可能な留学スタイルのひとつとして積極的に活用することを検討している。

現在、学生は本留学に参加して間もないが、終了後に調査する事後アンケートや事後報告書を参考にし、今後有効活用していきたい。授業料のかからないデモレッスンが準備されているため、今回購入した専用ヘッドセットを学生に貸し出す機会を設け、積極的に広報を行い、学生に“新しいカタチ”の語学留学を、まずは体験してもらいたい。もちろん、現地渡航し、多くを経験しながら交流を深めつつ、異文化に触れるのが本来の留学の醍醐味であることは言うまでもない。しかし、VR オンライン留学を留学の選択肢のひとつとして加えることにより、仮想現実内で、短い時間ではあるが、より現実に近い形で現地の講師や他国との学生の交流機会を得ることができ、留学をより身近なものとして捉えることができるのではないかと、「VR を活用したオンライン語学留学」の可能性やあり方に期待する。

参考：<http://eerc.eng.yamaguchi-u.ac.jp/>, (山口大学工学部附属工学教育研究センターURL)